

SUMMARY

徳島経済

vol.105 【要約版】

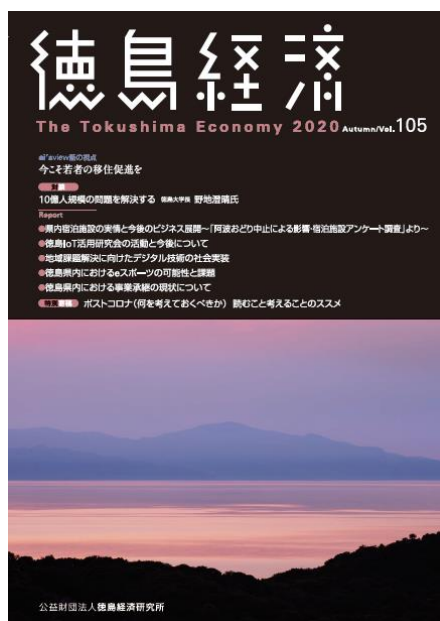
～徳島経済を読んで、誰よりも徳島通になろう！～

このたび、徳島経済研究所は機関誌『徳島経済 vol.105』を発行しました。

『徳島経済』は毎年2回発行しており、各界で活躍される方との対談や、徳島の経済をさまざまな視点からフォーカスした調査レポートを掲載しています。

今回の2020年秋号（vol.105）に掲載されている対談やレポートを、【要約版】にまとめました。いずれも徳島の経済や産業、文化に関する内容です。

詳細については、『徳島経済』本誌をご覧ください。



表紙
「鳴門市島田島」

公益財団法人 徳島経済研究所

TEL (088) 652-7181 / FAX (088) 625-3818

当研究所 HP(<https://www.teri.or.jp/>)で全ページ閲覧できます。

冊子をご入用の方はご連絡ください。

～10 億人規模の問題を解決する～

徳島大学長 野地澄晴氏

2004 年の国立大学法人化以降、徳島大学でも運営費交付金は大幅に削減されている。そんななか 2016 年の学長就任後、さまざまな改革を進めている野地学長との対談。クラウドファンディングの運営、大学産業院の創設、大学発ベンチャーに投資するファンドの構想など、自助努力による資金調達と産学連携を積極的に進めるだけでなく、「次世代産業人材創出プログラム」を新設し学長自ら講義を行い、徳島の未来のために起業家育成に注力する。

後半では、学長の研究分野の話題で、コオロギせんべいや珍しいハナカマキリにも触れている。

～ちょっと抜き書き～

●無印良品のコオロギせんべいは最初通販サイトだけで販売していたのですが、発売当日で初回納品分が売り切れしました。～(中略)～ コオロギ自体の味がエビに近いのでその味を活かしているようです。それに、そもそもおいしくなければいくら環境に優しくても売れませんから、味が良いことは絶対に必要です。

●大塚製薬にしても日亜化学にしても、みな徳島にあることが当たり前だと思っているけれどそうではないんです。こうした企業が徳島にあることは、本当に恵まれたことです。～(中略)～ 第 2、第 3 の大塚製薬や日亜化学を作っていかなければいけないと思います。1 社でも 2 社でも、新しく上場する企業が出てくることが、徳島県を活性化する一つの重要なポイントじゃないかと思います。

● Report ● 研究員による調査レポート

今回の緊急アンケートでは約 3 割の宿泊施設が「廃業検討の可能性がある」と回答。規模に関わらず幅広くコロナ禍の影響が及んでおり、様々な視点からの支援が求められる。

調査：県内宿泊施設の実情と今後のビジネス展開

～「阿波おどり中止による影響・宿泊施設アンケート調査」より～

(担当 元木秀章)

本稿は観光産業の中心に位置する宿泊業の 2020 年上半期の動向を概観したのち、同年 6 月に実施した「阿波おどり中止による影響・宿泊施設アンケート」(NHK 徳島放送局との共同調査)の結果を取りまとめている。また同調査から見てきた県内宿泊施設の実情や課題を分析し、さらに今後のビジネス展開などについて考察を加えた。

同アンケートでは、約 3 割の宿泊施設が今後「廃業検討の可能性がある」と回答しており、新型コロナでの経営不振の中、売上や利益のウエイトが大きい夏の阿波おどりの中止決定が追い打ちをかけたかたちとなった。足もとでは Go To トラベルキャンペーンなどで観光需要が喚起されているものの、従前の水準には程遠いのが実情で、もはやコロナ前の水準には戻らないとの見方もある。こうした需要喚起の施策が目立つ中で、一方の供給側である地域の観光事業者のダメージを回復させ、観光インフラを維持する視点が求められる。また観光事業者においても、今の時期こそ前向きな発想で「アフターコロナの青写真」を描き、未来に向けた行動を起こすことが重要である。

徳島 IoT 活用研究会の活動などを通じ、これまでメンバー企業の約半数が実際に IoT に取り組んできた。実運用に至った事例も現れるなど一定の成果を得ることはできたが、大きく拡大したとまではいえない。今後は、IT 全般を対象とする新たな活動に移行する。

調査：徳島 IoT 活用研究会の活動と今後について

(担当 蔭西義輝)

当研究所では、これまで 4 年間 IoT 活用を後押しする活動を続けてきた。この活動は、①「シンポジウムの開催(2回)」、②「徳島 IoT 活用研究会での講演会・ワークショップ(9回)」、③「当研究会メンバー企業における実際の取り組み」に大別される。特に、③については当研究所のマッチングにより取り組まれているものもあり、過去 1 年間におけるこうした取り組みには「豪雨時冠水の予測精度の向上に資する安価な IoT デバイス・システムの開発」などがある。

昨年報告した「中小企業における IoT 活用についての考察」では、IoT 活用を後押しする、逆に阻害する要因、問題点などを整理した。これらについて、「経営者等が” IT 活用(←IoT 活用)を最優先レベル(←優先順位の高い)”の経営課題であると認識しているか」へ修正するとともに、「インセンティブを高めるための支援策の拡充」を追加した。

これまでの活動については、活用に乗り出す企業を大きく広げられていないなどの反省点を挙げることができる。また今般のコロナ禍において WEB、オンライン、クラウドなどの活用が一層進んでいることなども踏まえ、今後は「生産性向上」、「これまで以上の IT 活用」をコンセプトとして、IT 全般を対象とする新たな活動に移行する。

デジタル技術の社会実装の担い手として期待される県内のベンダー企業

調査：地域課題解決に向けたデジタル技術の社会実装

(担当 大谷 博)

地域課題解決に向けて IoT、AI、ビッグデータ、5G、ドローンなどのデジタル技術の活用が注目されている。四国アライアンス地域経済研究分科会と四国経済連合会がベンダー企業(デジタル技術・サービス提供企業)に行ったアンケート調査によると、県内のベンダー企業の事業内容として多い分野は防災、公共施設・インフラ設備、1次産業、医療・福祉などである。デジタル技術の社会実装に取り組んでいく上で、国や自治体、大学などに求める支援施策や要望として、「自治体や他企業と連携して社会を変革していくための事業、これに対する助成や補助金、新たな制度づくり、規制緩和などの様々な支援を期待している」等が挙げられている。

e スポーツには経済的意義だけでなく、社会的意義も包含している。今後の地域での定着には関係団体のこれまで以上の連携が求められる。

調査：徳島県内における e スポーツの可能性と課題

(担当 井上郷平)

昨今 e スポーツが国内外で盛り上がりを見せている。我が国の e スポーツ市場は発展途上ながら年々拡大している。市場拡大を支えているのは民間企業からの協賛であり、企業にとって市場の成長や若年層との接点の構築などが魅力となっている。一方で「ゲーム障害」などへの懸念の声も聞かれる。

県内外の取り組み事例から、e スポーツの活用により①勉強や既存のスポーツとは異なる

「新たな活躍の場」としての効果、②障がいの有無、性別、年齢の違いなどを乗り越えるコミュニケーションツールとしての効果、③プログラミング教育への波及効果などがみられた。一方で徳島県内ではゲームユーザーの減少や「ゲーム障害」への対策、地元企業の支援が広がっていないなどの課題があるという話が聞かれた。

今後 e スポーツを地域の中で根付かせるには、専門組織である「徳島 e スポーツ協会」が中心的役割を担うとともに、関係団体がこれまで以上に連携し、協会の活動をバックアップできる体制の構築が重要と考えられる。

地域経済の持続的な発展には、公的機関や経済団体、地域金融機関などの連携が進み、円滑な事業承継が実現できる環境を整えることが必要不可欠である。

調査：徳島県内の事業承継の現状について

(担当 榎原さやか)

多くの中小企業が経営者の高齢化や後継者不在による廃業リスクを抱える中、徳島県においても円滑な事業承継を定着させることは喫緊の課題となっている。徳島県内企業の「休廃業・解散」件数は6年連続で200件を超えて推移し、増加傾向が続いている。また、徳島県に本社が所在する企業のうち「後継者不在」と回答した企業の割合は49.0%と約半数に上る。近年比率が高まっているM&Aをはじめとする第三者への事業承継について、公的機関である徳島県事業引継ぎ支援センターの支援事例を取り上げ、企業、同センター、地域金融機関別に見た円滑な事業承継のために必要な取り組みについて考察する。

●特別寄稿●

◆ポストコロナ（何を考えておくべきか）読むこと考えることのススメ◆

(技術顧問・工学博士 西池氏裕氏)

「今何を考えるべきか」について、①コロナ騒動の最中である今とコロナの後を含めてどんなことを人々は考えているのかを知る②感染症のことをよく知る③感染症の発生の有無にかかわらずこの社会はどのような方向に動こうとしているのか、また動かすべきかの基本的な考え方を持っておく、という3つの視点から、テーマごとに以下の3冊の本を推薦する。

- ・①「コロナ後の世界を生きる」村上陽一郎編 2020年7月、岩波新書
- ・②「感染症の世界史」石弘之 2018年1月、角川ソフィア文庫
- ・③「現代社会はどこに向かうか」見田宗介 2018年6月、岩波新書

今回のコロナ騒動を契機にして3冊の本を紹介しながら、自身も学ばせてもらったが、その時、これは大事だと感じたこと、普段から考えていたことでより確信がつかめたことを箇条書きにして「まとめ」とする。

「現代社会は歴史的に『分散とネットワーク化』に進んでおり、パンデミックのような非常事態はその変化を加速すること」

- ・科学的なデータに基づく政策を行わせることの重要性
- ・歴史に学ぶことの重要性
- ・個人個人が学ぶことで時代変化の方向を先取りすることの重要性
- ・「利他主義」という周囲の人への思いやり